

ルーブリック講習会

1. はじめに

ルーブリックとは、学修の到達度を測定する評価方法の一つであり、テストでは測定が難しい学生のパフォーマンスや課題への取り組みなどの定性的な評価、質的評価に適している。アクティブラーニングの積極的な導入と共に、取り入れられるようになった。

ルーブリックは複数の評価項目（評価規準）から構成され、評価尺度を満たした場合の評価基準が文章で示される。評価基準は行動ベースで記載され、評価者である教員、評価を受ける学生が共に成績評価の基準を共有することができる。

ルーブリック活用の意義は複数考えられる。まず、教員が学生のパフォーマンスを多面的に評価する際に有効となる。また、学生が学習活動において目指すべき方向性を理解し、授業の到達目標に向け学習を進めていくための指針となる。さらに、学生はルーブリックをもとに自らのパフォーマンスに対してふり返りを行い、自己改善に努め次のステップに意識を向けることができる。教員側の活用意義としては、複数人数で担当する授業において評価の質を担保したり、学生の成長が示されているルーブリックを手がかりに自らの授業内容を検討したりすることが挙げられる。

2. ルーブリックの導入にあたって

文部科学省は、2022年11月「大学における教育内容等の改革状況について（令和2年度）」の調査結果を公表した¹。進展がみられた事項として、カリキュラムの体系性を示すためのナンバリングの実施、教員間での授業科目の内容の調整、ルーブリックの活用の3点を挙げている。ルーブリックの活用については、平成28年度調査では117大学（16%）であったが、令和2年度調査では224大学（30%）と、5年間で活用している大学が倍増している。

本学のシラバスにルーブリックを添付できるようになったのは2022年度公開のシラバスからである。2023年度公開シラバスは、ルーブリックが添付可能となって2年目となるシラバスである。ただし、ルーブリックの作成には時間もスキルも要することから、2022年度ならびに2023年度共に、ルーブリックの添付は任意とした。

ルーブリックに関する講習会は、2021年度に引き続いての開催である。2021年度は「はじめてのルーブリック」と題した講習会を開催した。第1回目、第2回目は「ランチ講習会」としてZoomで実施し、ルーブリックの使用目的や使用のメリットなどを伝えることを目的とした。第3回目は春季休業中にZoomで実施し、実際に作成しての感想や今後の課題を少人数の有志で共有する会とした。

2022年度は、前年度より実践的な内容を盛り込むことを目的とし、講習会参加者が実際にルーブリックを作成する時間を設けた。授業期間中の5限の実施であったため、参加者は多くなかったが、まずは、ルーブリックの作成に着手するよいきっかけになったと考える

¹ 『大学における教育内容等の改革状況について（令和2年度）』文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336_00009.htm（2023年4月15日参照）

3. 実施概要

(1) 開催の記録

日時：2023年1月11日（水）16：20～17：50

教室：8205 教室

参加者：15 名

(2) プログラム

表1 当日のプログラム

	内容	時間
1	ルーブリックの基本（担当：星野）	15分
2	科目ルーブリックの例（担当：塚田）	15分
3	実際にやってみましょう	40分
4	実際に作成してみて（ご参加の先生方からのコメント）※	15分
5	まとめ（担当：塚田）	5分

プログラムは上記の通りである。ただし、参加者が予想していた人数より少なかったため、「4 実際に作成してみて」は特に時間を設けることはせず、「3 実際にやってみましょう」の流れで随時、疑問点や感想を共有したりした。

(3) 当日の資料

当日の資料「ルーブリックの基本」（担当：星野）と「科目ルーブリックの例」（担当：塚田）について、その概要を示す。講習会ではパワーポイントで要点を共有すると共に、配布資料は後日ダウンロードできるようにした。

【ルーブリックの基本】（担当：星野）

① ルーブリックを使うメリット

ルーブリックを使うメリットとして、学生側・教員側のメリットを合わせて6点挙げた。

② ルーブリックの種類

「カリキュラムルーブリック」「科目ルーブリック」「課題ルーブリック」の階層関係を示し、「科目ルーブリック」と「課題ルーブリック」の活用事例について示した。

③ ルーブリックの作成方法

科目ルーブリックの作成方法として、担当者の担当講義である「日本語学入門」を例にして作成手順を示した。

第1段階 ルーブリックを作成する科目に関しての振り返り

学生に求めていること、科目の設定意義、学生に期待していることなどを振り返る時間を取る。既存の科目であるならば、評価の高い学生と評価の低い学生のパフォーマンスを振り返る。

第2段階 リストの作成

科目の具体的内容と科目を履修することでできるようになってほしい学習目標を検討する。具体的には、当該科目の学習で期待される最高の到達段階をイメージする。

第3段階 グループ化と見出し付け

ディプロマ・ポリシーを確認しながら、第2段階で挙げたリストをグルーピングし、評価項目の妥当性を検討する。

第4段階 表の作成

ルーブリック表を作成する。

④ ルーブリックの点検—メタルーブリック—

ルーブリック作成において留意する点に加えて、「評価観点」「評価基準」「評価尺度」について考慮すべき点を示した。

⑤ 本学シラバスに対応したルーブリックの作成方法

例を示しながら、1~4で示したポイントを改めて振り返った。なお、ルーブリックは、複数回の改訂を経ることで、実情に合ったルーブリックに近づいていく。最初から完璧なものを求めず、まずは作成に取り組んでみるのが肝要である。

⑥ 評価基準の書き方のポイント

一文に含めることができる内容や、評価基準のレベルの調整に用いることのできる表現、目標に用いることのできる動詞など、具体的な表現について例を挙げた。

⑦ 参考

ルーブリック作成にあたって参考になるサイトを紹介した。大学の異なりによらず実施されている初年次教育などについては、公開されているルーブリックに学ぶことが多々ある。

【科目ルーブリックの例】（担当：塚田）

小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目として「理科」の例を挙げた。ここでは、大学で使用しているフォーマットを用いて、その手順を具体的に示した。

- ① カリキュラムチャートを基に、該当科目で学生が身につける資質・能力を設定する
- ② 学科 DP を踏まえ、評価項目を記入する
- ③ 書く評価項目に対して到達目標（B 基準）を設定する
- ④ B 評価を基に S, A, C 基準を設定する
- ⑤ 評価方法ごとの評価の割合を記入する

4. 参加者アンケートから

9名の参加者よりアンケートの回答があった。以下、結果を記載する。

（1）理解度

よく理解できた（1名）、まあまあ理解できた（7名）、あまり理解できなかった（1名）という結果であった。昨年度もルーブリックの講習会を実施したとはいえ、ルーブリックを十分理解するには時間がかかる。ただし、十分理解することができなくても、作成を試みることで、ルーブリックの利用価値やルーブリックを作成するにあたっての留意点を意識することができたと考えられる。

（2）参加者の感想

以下、参加者の感想を抜粋する。

- ・ルーブリックの重要性を理解することができた
- ・作成の手順はわかったが、実際に作ろうとすると難しい
- ・シラバスとの関係を意識して作らなければならないため、ルーブリックの作成は、シラバスの改訂をも意識することになる
- ・シラバスの改訂のみならず、カリキュラムチャートとの関連の再考も必要である
- ・分野や領域において作りやすさ・作りにくさがあることを感じた
- ・実際に作成に取り組む時間があったので、昨年度の Zoom 講座よりも理解ができた

時間の関係で、参加者それぞれが時間内にルーブリックを完成させることは難しかったが、まずは取り組んでみることに今回の講習会の意義があったと思われる。

5. まとめと今後の課題

授業期間中の5限の開催ということもあって、参加者は多くなかったが、その分、和やかな雰囲気の中でルーブリックについて学びを深めることができた。また、参加者全員がルーブリックの活用について意欲的であったため、ペアやグループで問題点を解決する場面もみられた。加えて、実際にルーブリックを作成する時間があったことで、作成の難しさを共有しながらも、ルーブリックの有効性・重要性を確認する場となったと評価する。

今後は、講習会の開催日程を考慮することで、より多くの教職員の参加を期待したい。なお、今回の講習会のプログラムのうち、「ルーブリックの基本」と「科目ルーブリックの例」については録画し、学内限定で録画データにアクセスできるようにしている。今年度はアーカイブの所在を周知するに留まったが、今後は、アーカイブの活用を検討すると共に、よりよい時期に講習会を開けるよう、日程を調整することを試みたい。また、ルーブリックを作成して終わることなく、ルーブリックのよりよい活用についても共有する機会を設けることも検討したい。

以上